



『かなひろい① (蜘蛛の糸)』

芥川龍之介の作品を読みながら「あ・い・う・え・お」
に○をつけましょう

あるひのことです。おしゃかさまはごらくのはすいけのふちを、ひとりでぶらぶらおあるきになっていらっしゃいました。いけのなかにさいているはすのはなは、みんなたまのようにまっしろで、そのまんなかにあるきんいろのずいからは、なんともいえないよいにおいが、たえまなくあたりへあふれております。ごらくはちょうどあさなのでございましょう。やがておしゃかさまはそのいけのふちにおたたずみになって、みずのおもてをおおっているはすのあいだから、ふとしたのようすをごらんになりました。このごらくのはすいけのしたは、ちょうどじこくのそこにあたっておりますから、すいしょうのようなみずをすきとおして、さんずのかわやはりのやまのけしきが、ちょうどのぞきめがねをみるように、はっきりとみえるのでございます。

○の数 合計 _____ 個

※かなひろい①の解答は、3/9 に発表します！

